

第 19 回人文学・社会科学特別委員会における主な意見

（人文学・社会科学の国際発信について）

- 大学には素晴らしいコンテンツがたくさんあるにも関わらず、研究内容が難しいといった面もあるかもしれないが、世間に知られていないものが多い。大学・研究機関がプッシュ型で研究の紹介をしていくことは極めて重要である。特に、人文学・社会科学の重要性を国民に発信していくためには不可欠であると思う。また、広報体制の構築には必要な予算の確保や雇用の安定化も必要だと感じる。大学や研究機関の広報体制の整備については、国としても支援を行っていくべきであると思う。
- ブランドジャパンを意識した発信は非常に重要であると思う。デジタル化の技術が発展しインターネット上のデジタルコンテンツの掲載数も増えているが、専門家以外の人を利用・理解しづらいという難点がある。ブランドジャパンに関する良いデータはあると思うので、今後はそれを専門家ではない人にも使えるようにして発信していく必要があるのではないか。
- 日本における研究成果や資料を国際的に見せていくだけでなく、日本の研究者や研究そのもの、研究のディスカッション・プロセスを国際的に見せていくことが重要であると思う。例えば、デジタルヒューマニティーズの国際共通規格等の議論においても、単純に技術を輸入してこちらが合わせるということではなく、日本や東アジアの研究者が国際的な場に出ていき、議論に参画する必要があると感じる。
- 多くの大学の広報は、研究の紹介にとどまっており、受動的なことが多く能動的な動きが少ないように感じる。研究者が広報の視点で考えるのは現状難しいので、研究成果の発信には広報部門の協力が必要である。研究の見せ方や研究広報のプロフェッショナル化を考えるうえで、サイエンスコミュニケーターのような人材をしっかりと育成する必要がある。
- 人文学・社会科学系からのプレスリリースが少ないというのは、人文学・社会科学系と自然科学系の間で雰囲気やメンタリティーに違いがあることが大きな原因であると思う。自然科学系の研究者はプレスリリースを行うことが普通であるが、人文学・社会科学系の研究者にとってはそもそもプレスリリースを行うという発想がないことが多いように感じる。したがって、人文学・社会科学系の研究成果の発信については広報の方からのアプローチが非常に重要であると思う。また、人文学・社会科学系の真に広報すべき研究を目利きできる人材が必要であり、そうした人材を育成していくことも必要であると思う。

- 自然科学系は研究成果が発信とセットになっているので、発信に関して人文学・社会科学系とはモチベーションが違うように感じる。広報については、各大学において必要な予算を確保し専門人材をしっかりと抱えるとともに、コミュニケーション戦略を作成して、良い意味での競争原理も働かせながら推進していく必要があると思う。
- 広報を意識した研究プロセスの見直しを行うとともに、国際化のためには、併せて学会やコンファレンスの果たす役割を検討する必要があると思う。そのためにも広報は個人に任せず、組織のシステムとして考えるべきだと思う。
- 研究成果の国際発信にあたって、人文学・社会科学系の研究者の成果発信の意欲をどのように高めるかを考える必要があると思う。
- 広報の意義について、人文学・社会科学系の研究成果の発信は文化を醸成していくための重要な基盤であるように思う。自然科学系では共同研究の実施や発信はメリットがあるが、人文学・社会科学系では研究者が共同研究の実施や発信にメリットが感じられるかどうかによって、それらへの研究者のスタンスも変わってくるように思う。また、人文学・社会科学系においても、国際共同研究が評価されるようになることが重要であると思う。